

港屋株式会社

平成29年度より、「総合的な学習の時間」の授業を担当

港屋株式会社(横浜市、代表取締役五島希里)は、平成29年4月1日より、複数の国内私立中学校・高等学校において、中学2年生・高校2年生・高校3年生を対象に、「総合的な学習の時間」の授業を担当いたします。

■「総合的な学習の時間」で実施する授業について

学習内容は各学校や学年によって若干の違いがありますが、共通したテーマとして、生徒による探究的な学習と実践(プロジェクト)を設定。プロジェクト企画段階における問題発見や課題設定を通じて、「自分が生涯かけて解いてみたい問い」に出会うきっかけを創出します。

港屋のメンバーは、これまで社会人に対するコーチングを仕事としてきました。コーチングとは、クライアントの目標達成に向けた対話の技術のことをいいます。問いかけとフィードバックを軸に、クライアントを主役に据えたコミュニケーションを定期・継続的に行います。

港屋は、やりたいこと的手段や方法論を重視しながらも、“なぜ、その事に取り組みたいのか”“自分ならではの興味・関心の切り口は何か”といった対話を通じて“問いを立てるプロセス”を授業に取り入れ、プロジェクトライフサイクル(企画→計画→実行→終結)の一連を体験するカリキュラムを構築いたしました。また、1年間の活動の前後で、自分のプロジェクト活動における特徴や強みがどのくらい発揮されたのかを測定するルーブリック評価、活動や成長を表現するポートフォリオの作成を行います。

授業を担当いたしますが、「講師」ではなく「コーチ」として、生徒のみなさんに定期・継続的に関わってまいります。また、授業づくりは先生方と役割を分担し、協働で取り組みます。先生方が、挑戦する生徒のみなさんを前進させる関わりができるよう、時に先生向けワークショップなども取り入れながら進めていきます。

■授業のねらい

主に以下の4点を、生徒が手にすることをねらいとしています。

- ・自分が生涯をかけて解いてみたい問いに出会うこと。
あるいは、今後磨き上げることでそこにつながりそうな興味関心を言語化をすること
- ・やりたいことが明確化したときに、形にする手段や実現プロセスの一連を経験すること
- ・自分や仲間の強みを認識し、チームの中で発揮すること
- ・生徒やプロジェクト関係者、プロジェクトへの共感で集った人たちとのコミュニケーションの場をつくること
- ・ルーブリック評価、ポートフォリオ作成を通じて、自分のことや自分の活動について表現できるようになること

誰にとっても、「やりたいこと(実現する手段や職業選択への落とし込み)」を決めるのは簡単ではなく、時代背景や個人の能力によって変化します。一方で、「解いてみたい問い」は、実現可能性によって制限を受けたり諦めたりする必要がないものです。もし、いま明確な自分の問いを持っていなかったとしても、その時点で持っている問いで対話や試行を繰り返す中で、生涯かけて解いてみたい問いが立つかもしれません。

だから、迷いながらも構わない。港屋は、そんな彼・彼女らが思う存分、対話と試行が出来る場をつくります。

■今後について

生徒のみなさんが考案したプロジェクトを、実社会で実現し、コミュニケーションをとる機会を用意しています。2017年夏頃に発表予定ですが、ご興味のある方はお問い合わせくださいませ。



港屋株式会社

広報担当:小畑(こばたけ)

TEL: 045-989-1454

MAIL: info@minatoya-jpn.com

URL: www.minatoya-jpn.com